

サービスラーニングを通し成長した自分

活動先：NPO 法人 プレマクラブみんなのき
クラス：松下 典子 先生

私は、サービスラーニングの授業の中でたくさんの事を学ぶ事が出来た。まず、学習の姿勢の面では、クラスの中で意見交換をして全員で振り返りの時間を取る事の大切さを知った。一人で考える事は、もちろん大切だが、人の意見を聞く事で自分とは全く違った意見にも触れる事が出来たし、そういった考えの違いから学ぶ事は多かった。自分の言葉に自信をもち、発言していく姿勢も学べた。また、リフレクションシートを授業の終わりに自分の振り返りとして記録に残していった。毎回時間がない中での記入が多かったのも、最初は戸惑ったし、「面倒くさい」といった気持ちが強かった。しかし、今リフレクションシートを見返してみると、毎回大変だったが記録できてよかったと思う。記録する事によって、自分自身のその当時の気持ちや考えなどを振り返る事も出来たし、レポート作成時には、リフレクションシート参考にしながら進める事が出来た。この2点の学習姿勢は今後の大学生活でも継続していきたい。

私が、サービスラーニングを選んだ理由はNPOの現場でフィールドワークが行えるからである。NPO自体もあまり深く知らなかった事もある。私は、NPOとはボランティア団体といったイメージが強かったので、その認識であっているのか、現場に行けば何か見えてくるのではと思い選択した。NPOバスツアーでは、3つの事業所に行った。私が、事業所の方から学んだ事は、地域で誰もが住みやすい環境を作りたいといった熱い思いがとても伝わってきた。そういった思いを行動にした「ゆめじろう」では、コロケの移動販売で地域の人に活動を知ってもらう活動であり、りんりんでは、喫茶店や道の駅を作り定年後でも働ける場の提供といった所に繋がっている事が実感出来た。

私は、プレマクラブみんなのき（以下、みんなのき）といった学童保育での活動を選択した。その活動の準備段階で活動先での事前訪問や打ち合わせを重ねていった。学生が主体で行う企画もあったので、どうしたら子ども達が楽しんでもらえるか、グループで意見を出し合った。私達のグループは、野外でのカレー作り&食事と折り紙を使って動物園を作る事に決まった。企画の準備を行う中で、企画書を活動先に提出したが、指導される事が多かった。企画のタイムスケジュールはどうなっているのか、道具は何が必要なのか、空いた時間に子ども達を退屈させず、楽しませる企画は考えているか、など多く修正する必要があった。この時、企画を計画する難しさを学んだ。口でいうのは簡単であり、やりたい事を具体的に相手に分かりやすく伝える事が必要だと気付いた。また、子ども達の活動は大人が行うより時間がかかるといった事も配慮し、予測する力も必要だと学んだ。

そして、6日間の活動が始まった。自分達が企画したカレー作りと折り紙で動物園を作る企画では、楽しんでもらえた様子だった事は、良かったが予定の時間では終わらず、大幅に延長してしまった。危険予測の面でも不十分な点が多くあり、活動先からアドバイスいただいた。反省する事を挙げるときりが無いが、活動先に行って初めて知る事も多かった。

私を知る NPO の施設は、どこも資金難を抱えている為、どこかの施設を改装してやられているといった勝手な思い込みがあったが、私達が行った「みんなのき」では、昨年4月に建設された真新しい建物であった。建物の中は広く駄菓子売り場や学童保育を終えた子どもがその建物内で塾やピアノ、英語が習えるといった新しい取り組みもされていた。

障害のある子ども何人かいたが、普通の子と一緒に関われる環境もあり、また個室も用意させていた。外に出るとグランドや畑といったスペースも完備されていた。また、子どもを預ける親さんとの交流をさせてもらう機会もあった。会話の中で、「みんなのき」があつてほんと助かっている、といった声が多くあつたのが印象的だった。地域に愛されながら仕事出来る NPO ならではの魅力を感じたのと同時に、夏休み、土曜日でも子どもを預けなければならない現代の家庭の現状がある事を知った。

私は、この活動を通して現場で活動して知る大切さを学んだ。大学の講義では知る事の出来ない NPO の現状の環境や課題を体で体験する事が出来た。これからは、大学内だけでなく外でのボランティア活動など自らアクションを起こしていきたい。

活動が終わってからも、振り返りとして代表理事や担当者と活動を終えての報告や質問など意見交換する場があった。その意見交換の中で、代表理事の話しで印象に残った言葉で「これからの NPO はボランティアといった考えだけでなく、事業としてとらえる必要がある」とおっしゃっていた。私は、この言葉にとても共感できた。それは、事業として NPO を運営していく事で、事業所の運営も継続していけるし、何よりスタッフの生活を守る事に繋がるからだと感じたからである。NPO で活動をされている事業所をみてきて、人材の大切さを知った。スタッフを守り、教育していく事で今後の NPO 事業の発展に繋がるのではないかな。

大学内でのサービ斯拉ーニング報告会では、B 紙に活動先の紹介や活動を通して感じた事などを掲載し、たくさんの事業所の方々とお話しする機会があった。また、パワーポイントを使った報告会では、活動先の方々や後輩の1年生の前で自分達がやってきた事をしっかりまとめて発表できた。他クラスの報告も、さまざまな分野の活動報告が聞け、また違った視点で物事をみる事が出来た。たくさんの人前での発表といった機会は、なかなか味わえないので緊張したが、とても有意義なものとなった。

この活動を通し、私は、NPO をもっと地域の住民に知ってもらう取り組みをしていく必要があるのではないかと考えた。実際、NPO の存在を知っていても何を行っているか分からない人は多いのではないかな。「みんなのき」では、お年寄りや親との交流会など行っていた。また、地域に出たの活動や展覧会に子ども達の作品を展示してもらうなど地域のつながりも行っていた。

私もサービ斯拉ーニングを通じ、大学生として NPO に関わる事が出来たので、大学生である「今しか出来ない」活動をして、少しでも NPO 事業に貢献したい。制度面では、地域によって市からの助成金などに差がある事が分かった。この事に関しても、問題意識を持ってこれからの大学生活を送りたい。これまでお会いした NPO の事業者の方々の様に、何事も諦めず、おかしい事はおかしいと社会に訴える事の出来る人間になりたい。